

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
国語表現学 Expression in Japanese Language		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2	必修	和田 征文	
概要				
<p>「音声言語」と「文字言語」による表現方法について、小学校における実践を念頭に置いた教材の開発とその指導法について実践的に学習する。</p> <p>併せて、国語科の今日的な課題を意識した国語科の授業者としての素養と指導力を醸成する。</p>				
到達目標				
<p>(1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれの音読・朗読・群読をすることができる。</p> <p>(2) 主題・取材・構成・記述・推敲・共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>I 「音声言語」による表現方法を実践的に学習する。</p> <p>1 「小学校学習指導要領・国語」における「表現」の指導</p> <p>2 「音読」の意義</p> <p>3 音読による授業づくり</p> <p>4 「発音チェック」と詩の音読</p> <p>5 一斉音読・役割音読、群読</p> <p>6 朗読「声を読もう・声で描こう」</p> <p>7 朗読・読み方を考えよう</p> <p>8 朗読・相手に聞かせる工夫</p> <p>II 「文字言語」による表現方法を実践的に学習する。</p> <p>9 句読点の打ち方・原稿用紙の使い方</p> <p>10 新聞コラムや先輩の作品による「随想」の実際と創作上のヒント</p> <p>11 書き出しの効用と実作 &lt;「書き出しは読者への誘惑である」&gt;</p> <p>12 実作へのアプローチ ①「テーマとネタ」（主題・取材）を考える。</p> <p>13 実作へのアプローチ ②「文章の構成」（構想）を考える。</p> <p>14 実作へのアプローチ ③「説明と描写の効果」（叙述・推敲）を考える。</p> <p>15 「随想」への挑戦 - 「今の自分」を「外部視点」をもって書く。-</p>				
テキストおよび 参 考 文 献	<p>上條 晴夫 編著「音読・朗読・群読の授業づくり」学事出版</p> <p>家本 芳郎 編・脚色「群読・ふたり読み」高文研</p> <p>「美しい日本語のしらべ」東京出版</p> <p>和田 征文 監修・山口県中学校国語教育研究会「中学校国語表現ノート」新学社</p> <p>その他授業の内容に合わせて紹介したもの</p>			
メ ッ セ ー ジ な ど	<p>国語教室づくりへのヒント、「随想」を書き上げる経験を得る授業</p>			

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれの音読・朗読・群読をすることができる。	教材文の特性を理解した音声言語による確かな読みができる。	仲間の意識や場面に合わせた声を出した読みができる。	教材や場面の特性に関係なく指示に従った音読・朗読ができる。	意識的に声を出す活動が不十分である。	授業中の活動・感想レポート（関心・意欲、思考力、判断力、表現力）	50%
(2) 主題・取材・構成・記述・推敲・共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。	作文の各過程の主旨が例文と共に理解でき、創作に生かせる。	授業で個別に取り上げる各過程の要点が理解でき、創作に生かそうとする。	授業で個別に取り上げる例示の主旨は理解できる。	作文についての苦手意識から脱皮できない。	授業中の活動・提出する作品（関心・意欲、思考力、判断力、表現力）	50%